

## 名作映画鑑賞会 上映日時 8月20日(土)午後2時

### 映画 二十四の瞳 (2022年NHK製作/90分)

脚本・演出 吉田康弘

原作者 壺井栄

出演者 土村芳 中島歩 麻生祐未 國村隼

1954年(昭和29年)に公開された「二十四の瞳」は、壺井栄の原作を監督・木下恵介が映画化した、今も日本映画の歴史に残る不朽の名作です。昭和初期の物語ですが、そこで描かれる貧困・差別・弾圧などは、決して遠い戦時中だけに限った問題ではありません。「二十四の瞳」を、私たちが次世代に伝えるべき<祈り>の物語としてよみがえらせます。

### ストーリー

田舎の古い慣習に苦勞して染みながら、12人の新入生の良い先生に育っていく。ある日、先生は子供のいたずらによる落とし穴に落ちてアキレス腱を断裂、長期間学校を休んでしまうが、先生に会いたい一心の子供たちは遠い道のりを泣きながら見舞いに行く。

しばらくして、先生は本校に転勤する。その頃から、軍国主義が色濃くなり、不況も厳しくなって、登校を続けられない子供も出てくる。やがて、結婚した先生は軍国主義教育はいやだと退職してしまう。

戦争が始まり、男の子の半数は戦死し、先生の夫も戦死してしまう。また、先生の母親と末娘も相次いで世を去る。

戦後、中年になった先生は、また分教場に戻り教鞭を取る。教え子の中にはかつての教え子の子供もいた。その名前を読み上げるだけで泣いてしまう先生を子供たちは「泣きミソ先生」と呼ぶ。

そんな時、かつての教え子たちの同窓会が開かれる。その席で、戦争で失明した磯吉は一年生のときの記念写真を指差しながら、全員の位置を示す。

